

明治13年からの歴史を祝い、未来への発展を願う 専修大学創立140周年記念式典



↑ 式辞を述べる日高義博理事長



↑ 式辞を述べる佐々木重人学長



↑ 祝辞を述べる新澤千佳子育友会長



↑ 司会の桂小文治さん

創立140周年を迎えた専修大学。創立記念日の9月16日（水）には、神田キャンパスの新校舎10号館（140年記念館）の相馬永胤記念ホールで創立140周年記念式典が開かれた。新型コロナの影響で規模を縮小しての開催。大学関係者、来賓87人が出席し、卒業生の落語家桂小文治さん（S55 卒卒）の司会で140年の節目を祝った。

1880（明治13）年に日本で初めて日本語で経済学と法律学を教授する高等教育機関としてスタートした専修大学。日高義博理事長は式辞で「創立者たちのサムライ・スピリッツがわれら専修人に息づいていればこそ、わが国の高等教育に140年の歴史と伝統を刻むことができた」と語った。佐々木重人学長は2016年に急逝した矢野建一前学長の思いに触れ、140周年記念事業をやり遂げたことを報告するとともに、「創立150周年に向けた道筋は、アフターコロナの時代を歩む。地球的規模で生じる教育・研



↑ 校歌を独唱する宮田悟志さん

究上のパラダイムシフトと捉える」とこれからの大学のビジョンを掲げた。

新澤千佳子育友会長はお祝いの言葉とともに、「大学と父母・保護者との懸け橋を担う」とコロナ禍における育友会の果たすべき役割を明確に示した。

校歌は人気TV番組「ザ・ノンフィクション」6代目歌唱アーティストの宮田悟志さん（H20 文卒）が無伴奏で独唱した。

♪我等が行く手は 光に充てり ―― その歌声は、優しく、力強く、会場に響き渡った。